

日本霊長類学会を終えて

テーマ：チンパンジー・ゴリラ・マンドリルの3種における行動割合

目的：それぞれの種がどういった行動に時間を要するのかを調べる。

方法：（対象）チンパンジー5個体・ゴリラ3個体・マンドリル4個体

（手続き）1分ごとのスキャンサンプリングにより各個体の行動を記録した。

時間を区切って、1種ずつ交代で観察した。

結果：（総観察時間）チンパンジー 110分

ゴリラ 104分

マンドリル 74分

考察：

- ① グルーミングはチンパンジーのオトナ個体間で頻繁にみられるコミュニケーション手段なのかもしれない。
- ② マンドリルにとってグルーミングはオトナ個体間で見られる高度なコミュニケーション手段なのかもしれない。一方でコドモ個体では干渉（接触・遊び）が多かったことからこういった手段でのコミュニケーションが図られているのかもしれない。
- ③ ゴリラはグルーミングを行わず、目を合わせるなどといった接触を伴わないコミュニケーションが行われている。
- ④ コドモ個体はオトナ個体に比べ移動の割合が大きく、休息の割合が小さいことから活発的なものかもしれない。

受けた指摘：

- ① まず結論（結果）を先に行ったほうが伝わりやすい。
- ② 「干渉」という行動ラベルは否定的な意味に捕らえられてしまうため、「関わり」といったラベルのほうがよい。
- ③ ゴリラは野生のゴリラでめったにグルーミングを行わない。

飼育下でも野生のゴリラの習慣が保たれている。などの考察にするとよい。

《これからの研究方針》

テーマ：

- ① 季節によるチンパンジー・ゴリラ・マンドリルの3種における行動割合
- ② 季節によるチンパンジーの行動割合
- ③ チンパンジーのグルーミングと個体関係

※3つ候補を出しました。

仮説：

- ④ 気温が高いほうがどの種も活発的になる。
- ⑤ 上と同様
- ⑥ オトナ個体どうし(特にジェームスとタカシ)でのグルーミングが大きな割合を示すのではないか。

方法：

- ① 今までと同様3種を1分ごとのスキャンサンプリングで記録する。その際気温も記録し、過去の気温は調べる。
- ② 上と同様
- ③ 行動サンプリングを行い、グルーミングが行われた個体名を記録する。

割合を出すとした場合は継続時間も記録。

《学会に出席した際の感想》

実際に研究者として霊長類の観察を行っている方のお話が聞け、とても興味深かったです。自分たちが気付かない点であったり、当たり前なことだと考えていることが、実は研究対象になったりするということがわかりました。細かい定義付けをすることであったり、正確な観察をすることなどを自分たちの実習にも生かせるようにしたいと思いました。

《実習を通じた感想》

スキャンサンプリングの間隔を1分にしたので記録するのが大変でした。

特にチンパンジーは飼育場所が2つに分かれているため大変でした。しかしかなりのデータが集まったのでよかったです。実習も残り半分なので楽しみたいと思います！

関西大倉高校 4期生

「マンドリルの使用する手の左右比較」というテーマで、マンドリルの使う手に左右で偏りがあるのか、またどのような行動でどのように偏りが現れるかを調べた。フォーカルサンプリング、行動サンプリングでマンドリルが使用する手の左右、行動を記録したところ、複雑な行動>単純な行動、大人>コドモというように手の偏りが大きくなることがわかった。ただ、この論を裏付けるデータはまだ全然完全ではないので、今後も引き続き同じ記録を取るつもりである。

私は生物が昔から好きで、学者に漠然とした憧れを抱いていたが、実習と学会を通して、多くの人たちが並々ならぬ時間や情熱を注ぎ研究を行っていることを感じた。

そして、沢山の研究者の話聴き、学会の空気を感じて、自分の興味があることをそのまま出来る世界があることに少し驚いた。

実習を通して、いままであまり馴染みがなかったサル類だったが随分と親しみがわいた。特にチンパンジーは、ヒトとの区別がつかなくなってきた。知能が高いというだけでないヒトとの共通点が、感じられるようになってきたのかもしれない。

テーマが変更になったり、学会直前でミスが見つかったりと実習では難儀がつづいた。研究の方法を考えると等々、長時間やっていると何が何だったか分からなくなったり、取りたいデータが無限にでてきたりすることがあり、目的を見失わないことが大切だと感じた。

今後も今のテーマを掘り下げ、またサルへの理解を深めたいと思う。

関西大倉高校 4期生

これまでの実習とこれからの実習について

僕は、同じ学校の実習生1名とペアで実習を行いました。

テーマはチンパンジーの行動と位置の関係性で、あらかじめ行動とその定義を何個か決め、その行動のどれかが出たら行動サンプリングで行動と位置を記録するという方法で観察をしました。その結果わかってきたことは、チンパンジー全個体として、暑い日は日陰がある場所で休息するということと、排泄の時に高すぎたり低すぎたりする場所を選ばないということです。ただ、雨等で外で観察することができた日が少なく、データも多いとは言えないので、次回からまたたくさんデータを取ってそれらを確かなものにしていきたいと思っています。また、次回からのテーマとしては、位置と行動の他に時間にも着目したり、参考のために屋内のデータも取りたいと思います。それ以外はこれまでと同じような条件で観察するつもりです。

学会の感想

霊長類の学会に行って良かったことは、

研究者の人達と話せたことです。グループで研究者の方と話すイベントがあったので、そこでいろいろな話を聞くことができて良かったです。

研究者の方だけでなく、他の学校の生徒とも話すことができました。

実習全体の感想

実習を通して、普段とは違う視点でチンパンジーを見ることができ、どんどん観察に慣れていく感覚があって面白かったです。

この実習に参加しないと得ることができなかつたことがたくさんあると思います。

ポスター発表を終えて

関西大倉 4期生

《これまでの研究の考察》

- ・グルーミング、休息などの体を休める行動は、屋根があり木が生い茂っているといった、日よけができる条件がある場所で行うと考えられる。
- ・排泄を地面ではなく少し高さのある場所とする傾向があるのは、排泄する際に尿や糞が自分の体にかかるのを防ぎ、なおかつ高い場所とは異なり自分より下の場所にいる他個体の様子が分かり、排泄時に他個体に尿や糞がかからないようにするためだと考えられる。

《今後の研究テーマ》

チンパンジーは特定の行動を特定の場所で行い、時間帯や季節によって変化があるのかどうかを調べる。

《学会の感想》

実際に研究者の方々の発表を聞いて参考になったのは、発表する態度と内容です。皆さん、発表をどこか楽しんでいるように見え、そして簡潔にまとまっていたので、高校生の私も理解しやすく発表者の思いがすごく伝わってきました。

《これまでの実習の感想》

約半年間実習をしてみて最初は正直フィールドワークがきつくて慣れるのに時間がかかりましたが、徐々に実習から新たな発見が増えたことで研究がおもしろくなり、ポスター発表で研究者の方々から賞という評価をさせていただいき、自信がついたので、今後も研究を楽しみながら新たな発見をひとつでも多くできるように頑張っていこうと思っています。